

## 当院における CKD（慢性腎臓病）地域連携パス使用の試み

医療法人財団はまゆう会王子病院<sup>1)</sup>

医療法人財団はまゆう会相生リハビリテーションクリニック<sup>2)</sup>

黒瀬弘美<sup>1)</sup> 大谷麻岐<sup>1)</sup> 福山陽子<sup>1)</sup> 嘉戸淑恵<sup>1)</sup> 吉村美紀<sup>1)</sup>

上野真紀<sup>1)</sup> 渡辺千代子<sup>2)</sup> 箆島明彦<sup>1)</sup> 瀬川賀世子<sup>1)</sup> 田中孝夫<sup>1)</sup>

市丸喜一郎<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

CKD 患者の治療には、継続的なフォローが必要である為、かかりつけ医と腎専門医との連携が必須である。今回継続受診を考慮した地域連携パスを作成し、使用を試みたので報告する。

### 【目的】

地域施設との連携を円滑にし、CKD 患者の定期フォローを確実に行う。

### 【方法】

当院 CKD 外来フォロー中の患者 111 名中の患者の現状調査及び地域連携パスの作成

### 【結果】

CKD 外来受診患者 111 名中他医療機関と併診を行っている患者は、44 名（39.6%）。44 名中 7 名（15.9%）が再診予定日を過ぎても来院していない。

### 【考察】

自覚症状がなく、家族本人共に CKD フォローの必要性の認識が低く再診をしていないと考える。受診を促すために、地域連携パスを用いた併診機関への働きかけを行う必要がある。

### 【結語】

CKD フローの為に地域連携パスの活用が必要である。